

■『ラ・ボエム』(ウエストハリウッド)が
“2023年 全米で最もロマンチックなレストラン 100店”
“2023年 カリフォルニアで最もロマンチックなレストラン TOP7”
に選ばれました！

「OpenTable」という全米をカバーするレストラン予約サイトのクチコミにおいて、2022年に書き込まれた 1,300万件を超えるレビューを分析して作成された、“全米でもっともロマンチックなレストラン100店”に、子会社が運営する『ラ・ボエム』が選ばれました！そして、カリフォルニアではTOP7に入りました！



会社概要 (2022年12月31日現在)		Corporate Data
商 号	株式会社グローバルダイニング GLOBAL-DINING, INC.	
本 社 住 所	〒107-0062 東京都港区南青山七丁目1番5号	
主 な 事 業 内 容	レストラン経営による飲食事業	
設 立 年 月 日	1973年10月5日	
資 本 金	43,140,953円	
従 業 員 数	単体178名 連結193名（連結臨時従業員数664名）	
店 舗 数	46店舗（海外2店舗含む）	
子 会 社	グローバルダイニング、インク. オブ カリフォルニア	
役 員	代表取締役社長	長谷川 耕造
	取締役 副社長	小林 庸麿
	取締役 最高財務責任者	中尾 慎太郎
	取締役最高マーケティング責任者	トゥードル・ルチアン・シルビウ
	監査等委員 委員長	藤本 三郎
	監査等委員(社外)	大島 明子(岡本 明子)
	監査等委員(社外)	川井 隆史

株式メモ	
単 元 株 式 数	1単元の株式数 100株
事 業 年 度	毎年1月1日から12月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年3月下旬に開催
株 主 名 簿 管 理 人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵 送 物 送 付 先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電 話 照 会 先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-782-031
https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/	

■ウクライナ支援活動

ロシアの軍事侵攻に苦しむウクライナの方々を支援するため、2022年 4月1日より、各店舗にて募金箱の設置とチャリティードリンク「Slava Ukraine (スラヴァ ウクライナ)」(“ウクライナに栄光を”の意。1杯 440 円 (税込) のうち 200 円を寄付。)の販売をおこなっております。2022年12月末日までの寄付金累計額は5,897,207円となり、応急手当に使用される止血帯等(5,652,746 円分)を購入し、在日ウクライナ人ボランティア活動家 Rad Taras 氏の協力により現地に届けております。

一刻も早くこの事態が終息することを願い、継続した支援を行ってまいります。



【閉店のお知らせ】	
2022 年 4 月	LB8を閉店（ゼストキャンティーナ代官山に業態変更）
2022 年 8 月	ステラートサパークラブを閉店 (カフェ ラ・ボエム ペントハウスに業態変更)
2023 年 2 月	ラ・ボエムバスタフレスカ名古屋則武新町を閉店

株式情報 (2022年12月31日現在)		Stock Information
発行可能株式総数	16,896,000株	
発行済株式の総数	10,370,300株	
株 主 数	3,854名	
大 株 主	※持株比率は分母から自己株式(711株)を除いて計算しております。	
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
長谷川 耕造	6,293	60.69
株式会社スペースラボ	792	7.64
ハセガワインターナショナルトレイドカンパニー	626	6.04
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	272	2.63
株式会社古館篤臣総合事務所	115	1.11
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	112	1.08
小林 庸麿	63	0.61
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB)	52	0.50
長坂 賢介	40	0.39
柴田 博行	26	0.25

(注)(株)スペースラボの所有株式数には、日本証券金融株式会社との株式の消費貸借契約に基づく貸株 36,600 株を含めて表記しております。

所有者別株式数比率	株数(千株)	株式数比率(%)
個人・その他	8,324	80.27
外国法人等	1,129	10.89
その他国内法人	900	8.68
金融商品取引業者	16	0.16
金融機関	0	0.00

◆お知らせ◆
第50期定時株主総会(2023年3月25日開催予定)における決議の結果(決議通知)については、株主総会終了後、すみやかに当社ホームページに掲載致します。
当社ホームページアドレス <https://www.global-dining.com/ir>

Business Report 2022

第50期 ご報告 (2022 年1月1日から2022 年12月31日まで)



2022年2月OPEN タコファナティコ渋谷

東京・中目黒、名古屋・栄に続く3号店目を東京・渋谷センター街に出店。最高品質の青とうもろこし粉（グルテンフリー）を使った自家製トルティーヤを、鉄板で焼いて提供する本格スタイルのタコス専門店です。ビールやカクテルの他、プレミアムテキーラ&メスカル（約 100 種）といった本場のお酒もお楽しみいただけます。“タコス”という業態や立地特性から、外国人の来店が多い店舗となっています。
※完全キャッシュレス店舗のため、現金使用不可

住所：東京都渋谷区宇田川町 32番7号 HULIC & New UDAGAWA
席数：24 席



2022年9月OPEN(業態変更)カフェラ・ボエムペントハウス

白金台プラチナ通りに佇む古城レストラン（3 階建）の最上階を、『ステラートサパークラブ』から『カフェラ・ボエムペントハウス』として営業形態を一新しました。メニュー内容や料金体系は1・2階のカフェラ・ボエムと同様とし、好評だった“アフタヌーンティー”は継続して提供。下階との連携を図りながら、グリーンに囲まれた温室を彷彿とする開放的な空間で、優雅なひとときを提供してまいります。

※ウエディングでは“ステラート”の名称で継続中

住所：東京都港区白金台 4-19-17 3F
席数：50席



2022年12月末日を基準日とし、500株以上ご所有の株主様には、2023年4月1日から使用可能な株主優待証を同封致しております。

◆優待証に関するお問い合わせ◆

株式会社グローバルダイニング
総務管理グループ

Tel：050-5444-9868
stock@global-dining.com

株主優待証

有効期限：2023年4月1日より

2023年9月30日まで

15% OFF



2022年4月OPEN(業態変更)ゼストキャンティーナ代官山

恵比寿店の閉店から10年の時を経て、代官山に“ゼスト”が復活。契約満了や事業再編によりお台場店のみが存続していたところ、長年のお客様から「店舗数を増やしてほしい」とのご要望の声があがり、ワインバー「LB8」の業態変更によるオープンを決意。旧業態からのお客様をはじめ、恵比寿・三宿時代に“ゼスト”に慣れ親しんだお客様にも足を運んでいただいています。同年秋にはメニューを一新。より本場メキシコを感じられる魅力的なメニューといたしました。

住所：東京都渋谷区代官山町 16 - 2 八幡ビル 1F・B1F
席数：1F 38席、B1F 30席 ※テラス席はペット同伴可



GOURMET PICK UP!

記念日ディナーで人気の高い『カフレガート』では、「ベイクド・アラスカ」が“燃えるケーキ”としてSNSで話題に！（メレンゲに包まれたバニラアイスに、火のついたアーモンドリキュールをかけて提供）。炎のパフォーマンスとともに表面が香ばしく焼けたアイスケーキをお楽しみいただけます。

CAFE Legato

権八 GON PACHI

2022年1月より、『権八NORI-TEMAKI 原宿』では冬季限定で出汁と素材にこだわった熱々“おでん”の提供を開始。おでんに合う日本酒を取り揃えるほか、おつまみ感覚で食べられるように手巻き寿司を改良、インバウンド効果もあって、店舗売上は前年対比 141.9%と伸長しました。



当期における外食業界を取り巻く環境は、2022年3月に「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置」の終了や、同年10月の入国規制緩和による訪日外国人の増加、政府・自治体による旅行・外食需要喚起策の実施を受け、経済活動が正常化に向かったことから、来店客数に緩やかな回復の動きがみられました。しかしながら、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰や急激な円安進行、それらに起因する物価上昇などにより原材料価格や調達コストの上昇、光熱費の高騰、さらには消費マインドが低下するといった厳しい状況が続いております。

そのような中、当社（国内）は、コロナ禍で調達した短期借入金を順次長期に借り換えて財政状態の安定化を図るとともに、マネジメント層やホールスタッフへの教育・指導に注力し、サービスの底上げと光熱費や人件費、原材料費といった日々のコスト管理の強化に取り組みました。原材料高騰への取り組みとしては、一部は価格転嫁せざるを得ない状況でありましたが、メニューの集約・合理化、食材そのものや調達方法の見直しといったコスト低減に取り組みました。その結果、国内業績は、行動規制の緩和から商業施設内店舗の業績は回復に向かいましたものの、同業者の営業再開等により当社店舗の売上高が落ち着いてきたことや、新業態・小型店の収益化の苦戦に加えて、各社の人材募集再開による採用費の増加や大幅な光熱費のコストアップが響き、黒字は維持したものの前年比では減収減益となりました。

米国については、コロナ禍で業績急回復を成し遂げた最高執行責任者が最高経営責任者に昇格し、屋外営業とDJ・ライブミュージック等のナイトクラブ営業の人気の定着や、円安による連結業績への取り込み額が増加したことから、前年対比25.5%の増収（日本円換算）となりましたが、下期において米国景気減速により勢いが失速したことでエンターテインメント強化に伴う費用が重荷となり、また今後の成長投資として新店出店の準備と本部スタッフの増員によるコストアップから、利益につきましては減益となりました。

以上の結果、当連結売上高は95億58百万円（前年比0.2%減）、営業利益は2億24百万円（前年比69.1%減）となりました。経常利益は国内の商業施設内店舗にてコロナ感染拡大防止協力金収入83百万円がありましたため2億97百万円（前年比72.1%減）となり、一部店舗の業績不振と閉店決定により固定資産の減損損失（特別損失）1億66百万円を計上したものの、今後の業績動向等を踏まえ繰延税金資産（将来の支払い税金の減額）の回収可能性を見込み法人税等調整額1億8百万円を計上したことから、親会社株主に帰属する当期純利益は2億22百万円（前年比78.7%減）となりました。

新年度におきましては、国内では入国規制緩和によるインバウンド

需要が今後も回復に向かうこと、5月には新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを現在の2類相当から5類に移行する方針が決定されたことから、個人消費や設備投資の回復など内需主導の緩やかな経済の回復が期待されるものの、依然として原材料価格や光熱費、人件費といったコスト上昇の継続が懸念されます。

そのような中、国内では盤石な営業基盤の構築に向けて引き続きサービスの強化や新業態・小型店の収益化の確立、原材料高騰へのきめ細かな対応と徹底したコスト管理に取り組んでまいります。また、今後の当社の成長を担う若手の店長・料理長候補者（二番手）を対象としたマネジメント研修や料理講習会、海外研修プログラムなどを体系化していくとともに、優秀な人材を惹きつける魅力的な環境や人事制度づくりに努めてまいります。新店や新業態、宿泊&飲食複合施設といった新しいマーケットの開拓については、“稼げるパッケージ”として確立できるよう調査・研究を徹底して行い、確信をもって着手する考えでおります。

米国においては、2022年12月末にコロナ禍での支援策が終了となり、『1212（twelve twelve）』では歩行者専用道路を活用しての屋外営業エリアの大幅な縮小に直面し、店内でのエンターテインメント営業の強化と費用の適正化に取り組んでおります。『ラ・ボエム』は自店舗駐車場での屋外営業の通年営業許可に向けた改装の実施によって現状維持をしていく見通しであります。そのほか、コロナ禍で延期されていた団体イベントニーズの取り込み強化と、広く美しいパティオを活かした新店オープンに注力することで増収を目指してまいります。

これらの結果、新年度の通期連結業績は、国内のインバウンド需要の回復を見込みつつも光熱費や人件費、出店費用等のコストアップを想定し、売上高100億2百万円、営業利益3億円、経常利益3億14百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3億1百万円を見込んでおります。

2期連続黒字化を実現し、危機的な状態からは脱したものの、財政健全化は道半ばであり、今後の景気動向は未だ不透明な状況でありますことから、誠に遺憾ながら現時点における新年度の配当予想は無配とさせていただきます。株主の皆様には、何卒ご理解と引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年2月
代表取締役社長 長谷川耕造

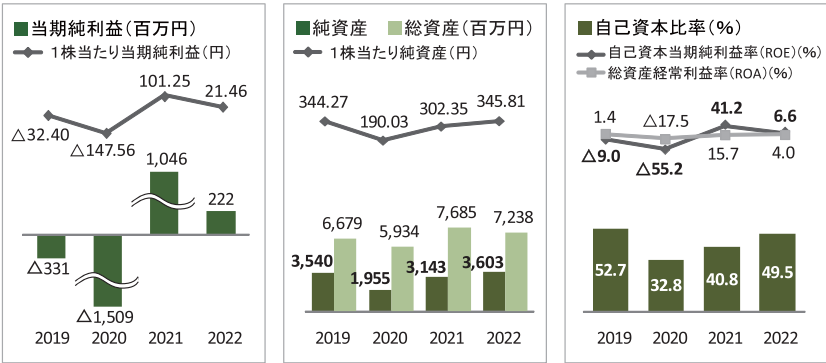
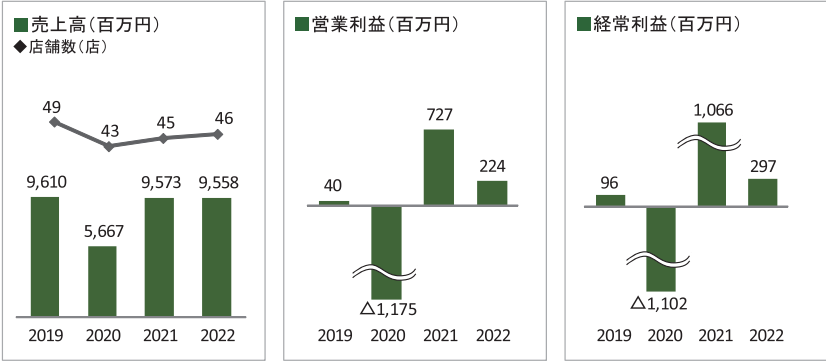
※本資料に記載の業績計画は、発表日（2023年2月10日）現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因によって計画数値と異なる可能性があります。

■企業理念改定のお知らせ

将来の人口減少や高齢化、コロナウィルスパンデミックによるライフスタイルの変化、エネルギー価格高騰や急激な為替変動の影響による物価上昇など、外食産業においては戦略の見直しや業態・オペレーション・メニュー開発の改善を余儀なくされる事態に直面しております。このような経営環境が大きく変化するなか、折しも当社は2023年10月に創業50周年を迎えます。このタイミングにて当社がこれまで大

切にしてきた価値観を見つめ直し、従来の企業理念体系を再定義して、改めて当社グループの「パーパス（存在意義）」、「ミッション（果たす役割・使命）」、「バリュー（大切にする価値観）」として明確に打ち出すことと致しました。当社グループの社員をはじめあらゆるステークホルダーの皆さまと新たな企業理念を共有し、今後の持続的な成長と企業価値の更なる向上を目指してまいります。

●PURPOSE（存在意義）	世界に喜びと健康を
●MISSION（果たす役割・使命）	世界中のあらゆるお客様に感動して頂き、社員も感動するための最高の舞台を提供する
●VALUE（大切にする価値観）	・フェア&オープン（個の尊重と徹底した情報公開による組織運営をしよう） ・本物志向（料理・サービス・空間の品質を追求しよう） ・革新性と創造性（現状に満足せず常にチャレンジし、新しい価値を生み出そう） ・健康増進（健康的な食の提供&環境づくりや健康習慣を定着させよう）

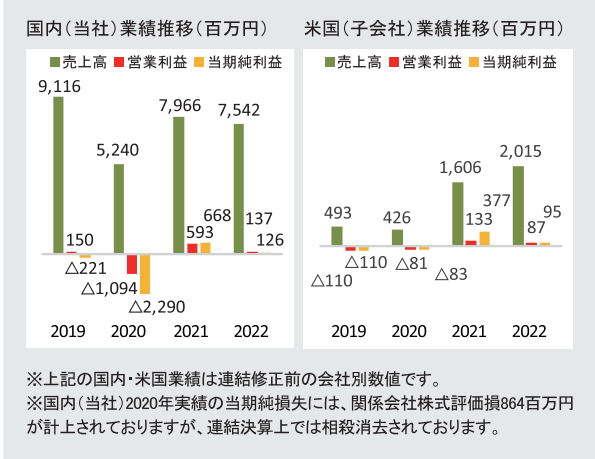
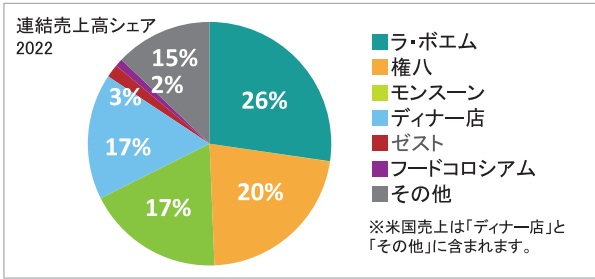


※決算の詳細はこちらをご覧ください <https://www.global-dining.com/ir/>

◆要約連結財務諸表

連結損益計算書 (単位：百万円)		
科目	前連結会計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
売上高	9,573	9,558
売上総利益	1,664	1,196
販売費及び一般管理費	937	972
営業利益	727	224
経常利益	1,066	297
親会社株主に帰属する当期純利益	1,046	222

連結貸借対照表 (単位：百万円)		
科目	前連結 会計年度末 (2021年12月31日現在)	当連結 会計年度末 (2022年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	2,475	1,840
現金及び預金	1,850	1,108
売掛金	300	384
その他	325	348
固定資産	5,209	5,397
有形固定資産	4,130	4,215
無形固定資産	1	1
投資その他の資産	1,077	1,181
資産合計	7,685	7,238



プレゼンテーション動画はこちら

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)		
科目	前連結会計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,417	△ 52
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 248	△ 299
財務活動によるキャッシュ・フロー	355	△ 444
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	52
現金及び現金同等物の増減額	1,529	△ 742
現金及び現金同等物の期首残高	321	1,850
現金及び現金同等物の期末残高	1,850	1,108

連結貸借対照表 (単位：百万円)		
科目	前連結 会計年度末 (2021年12月31日現在)	当連結 会計年度末 (2022年12月31日現在)
負債の部		
流動負債	2,229	1,777
固定負債	2,312	1,858
負債合計	4,541	3,635
純資産の部		
資本金	42	43
資本剰余金	2,141	2,143
利益剰余金	1,059	1,269
為替換算調整勘定	△ 116	121
その他	15	25
純資産合計	3,143	3,603
負債・純資産合計	7,685	7,238